

「受け継いでいきたい」

その思いが島民を動かした

青島へ行くと、港や学校のいたる所に、中学生のバレーボールでの思い出が詰まった卒業記念を目にすることが出来ます。

それらを大切に守り続ける島民の姿からは、バレーボールの伝統を受け継いでいこうという気持ちが見えてきます。

青島バレーのシンボル

記念像を制作

バレーボールを持ち、宝の浜の方向をまっすぐ見つめる記念像は、青島中学校の校舎前に建っています。高さは約2・5m。昭和58年度と昭和61年度の卒業生によって作られたものです。

試合前の早朝には、郵便まーちゃんの前とともに、部員みんなで祈りを捧げるのが恒例となっています。(写真左)。



バレーボールの思い出を残したいと制作



土台の陶板を作った

まさる 梶屋 勝さん (星鹿・青島、38歳)

バレーボールがすべてだった学生時代。卒業記念で何かを残したいと、平野和則先生(現在は佐世保市立東明中)と卒業生で約半年かけて作り上げました。像は、後に作り直されましたが、私たちが作った土台部分に埋め込んだバレーボールの思い出を描いた陶板は、像とともに今も残っています。焼く工程で何度も割れて、焼き直しを繰り返すなど、苦労して完成させたのを覚えています。

現在も、試合のたびに部員が輪になって、「頑張ってきます」という気持ちも込めて祈ってくれています。この像が青島バレーのシンボルになっていることをとてもうれしく思います。

こぼれ話

記念像を守れ!

「記念像レスキュー隊」現る

5月某日、小学生のフットサルの練習中、ボールが記念像に当たり、右腕がポキッと折れてしまいました。



それを聞きつけた同校のPTA会長 谷川一壽さん(写真左)をはじめ、園邊慶一さん(写真右)などの保護者が、「腕の折れた銅像を生徒が見たらショックを受けてしまう。早く修理をしなければ」と即修理。記念像は、翌朝には元通りの姿を見せていました。



♪ 別れゆく友よ ♪

喜びを分かちあい共に学んだこの学舎
思い出は今あざやかにぼくの心によみがえる
友と語ったこの窓辺 水仙の花一輪揺れる

別れゆく友よ いざさらば
すべての未来を 僕らの手に

苦しみを分かちあい共に過ごしたこのコート
アタックに流れる汗の若い炎をもやす時
沈む夕日を胸にして白いボールに全てをかけた

別れゆく友よ いざさらば
すべての未来を 僕らの手に

悲しみを分かちあい共に歩んだこの年月
巣立ちゆく不安と希望に満ちた瞳が輝くととき
青春の限りない道 勇気という名の翼ではばたこう

別れゆく友よ いざさらば
すべての未来を 僕らの手に

昭和56年度の全校生徒で作った「別れゆく友よ」。
現在まで、卒業式で卒業生を送る歌として、毎年在校生によって歌い続けられてきました。式に参加している生徒も保護者もみんなが涙するそうです。
ここでは、当時歌を制作した2人に話を聞きました。

卒業式でみんなが涙
バレーボールへの
思いを込め
手作りの歌を制作



生徒の バレーボールへの 思いを歌に

作曲をした
前田 英子先生 (平戸市立中部中学校)

生徒たちのバレーボールに対する純粋な気持ちを何かの形で残したいという思いから、歌を作ることになりました。当時の全校生徒から集めた言葉や文をまとめて詩を作り、私が曲をつけて「別れゆく友よ」が完成しました。

他の学校に赴任中、ある先生から「青島中学校では、いい歌が歌われているよ」と聞き、「別れゆく友よ」がずっと歌い続けられていることを知り、とても感動しました。

生徒だけではなく、保護者の世代も経験したバレーボールの詩が含まれているので、青島島民みんなが共感できる歌になっています。これからも歌い続けられるとうれしいですね。



島民みんなが 共感できる歌

作詞をした昭和56年度卒業生
羽戸 由美子さん (星鹿・青島、40歳)

当時の全校生徒で、言葉を持ち寄り、一曲の歌を作りました。前田先生が曲をつけて、出来上がった歌を聴いた時は、いい歌ができたなとうれしく思いました。

私は、この歌が完成し、初めて卒業式で歌って送り出してもらった卒業生です。

現在まで、毎年卒業式で歌い続けてきていることはとてもうれしく思います。子どもの卒業式に参加していますが、自分自身もバレーボール経験者。「別れゆく友よ」が流れると、参加者みんなが共感して、涙してしまうんですよ。